長期間に渡り安定した出荷を

キャベツ部会

キャベツ部会（工藤武一郎部会長）は６月９日に目揃会を開催し、部会員や市場関係者など24名の参加のもと、市場動向や出荷体制の確認を行いました。

はじめに、工藤部会長が「『白神キャベツ』の商標登録に向け、更なるブランド化に努めていきたい」と挨拶をしました。また、地域振興局普及課職員からは「菌核病や黒腐病が発生しているので、収穫時期を迎えているが圃場の状況をよく見ながら防除を行ってほしい」と呼びかけられました。

このほか、市場関係者から市場情勢や、他県の出荷状況などを報告され、参加者は適期収穫と規格順守を確かめ合いました。

▲出荷規格について確認する部会員

▲収穫を前に開催した現地研修会

県内トップの出荷量を目指す

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ現地栽培講習会並びに目揃会が６月11日に開催されました。生産者やＪＡ、地域振興局普及課職員など約35名が参加し、生育状況の確認や病害虫の防除、出荷規格の確認を行いました。

市場関係者は、「スナップエンドウの需要が高くなってきている。追肥、水管理等を徹底し、高品質のスナップエンドウを収穫・出荷してもらいたい。」と話しました。

スナップエンドウは軽量野菜として栽培にＪＡも力を入れており、部会員も意欲満々。白神管内では、約１haの栽培面積で販売高2.38ｔ、3,060千円を目指します。

廃プラスチックを回収し適正処理へ

営農企画課

ビニールや肥料袋などの農業用廃プラスチックを回収し、ＪＡが代行処理申請を行う取組みが６月27日、ＪＡの各営農センターで行われました。

この廃プラ回収は、環境保全と不法投棄を防ぎ、農家が廃プラ類を適正処理するための手助けとして、年数回行われております。当日は、ＪＡ青年部員やＪＡ職員が農家からの処理委託に対応しました。営農センターには雨の中、廃プラスチックを積んだトラックが次々と訪れ、全体で37名、約2,8ｔが処理委託されました。回収した廃プラスチックは、産業廃棄物の業者に委託して運搬され、利用者からは、「処理に困っていたので持ってきました。ＪＡが代わりに処理を行ってくれるので大変助かりました。」と喜んでいました。

▲廃プラを計量機に重ねる青年部員及びＪＡ職員

▲たくさんの作物の苗を植え付けました。

地域の身近な存在に

藤里支店

今年度から始まった支店を拠点とした協同活動は、各支店で地域に密着したイベントを行う事で、組合員をはじめ地域住民との新たな関係性を築くことを目的としています。

このうちＪＡ藤里支店では、５月29日に女性部藤里支部員らと協力して藤里小学校において全校生徒を対象にさつまいも・枝豆・かぼちゃ等の植え付けを行いました。佐藤支店長は「農業体験を通して次世代を担う子どもたちに『食』と『農』の大切さや素晴らしさを感じてもらいたい。」と話してくれました。

収穫した作物は学校で料理教室などを開催する予定で、さらなる食農教育の理解を深めていきたいと考えています。

蟹座（6・22～7・22） ゆったり気分で過ごせるはず。好きなことはとことんまで満喫する時間を持つとグッド。庭園に出掛けるのも吉